

家庭に 学校に広がる 読み聞かせ ～第59回学校読書調査から

第59回学校読書調査の結果概略が、毎日新聞 2013 年 10 月 27 日に掲載されました。

学校読書調査は、毎日新聞と全国学校図書館協議会(全国SLA)とが毎年合同実施しているもので、今回は家庭や学校での本の読み聞かせが、子どもの読書に与える影響を調査しました。

就学前の家庭での読み聞かせについては、1998 年、2008 年の結果と共に表されており、小中高校生全てにおいて、2008 年調査よりも「よく読んでもらった」と答えた割合が 10%近く上がり、小学校で 49%、中学校で 36%、高校で 39%となっています。

これには、2004 年に文化審議会が出した読書習慣と国語力についての答申や、その頃から活発化した保護者を中心とした学校での読み聞かせ活動の広まり、そして 2001 年に始まったNPOブックスタートによる各自治体での「ブックスタート事業」などが影響しているのではないかなという分析が、全国学校図書館協議会によってなされています。

しかし「まったく読んでもらわなかった」との回答も、3 回の調査を通して小中高それぞれに 1 割程度あり、家庭での読み聞かせを経験していない子どもたちの存在や、その状況が続いていることなど、子どもの読書環境における課題も明らかとなりました。

詳しい調査結果は、「読書世論調査2014年版」に収録され、来年 4 月に毎日新聞社から発行される予定です。 ※当館では継続的に収集・所蔵しています。

「第三次 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」について

2013 年 5 月に、国の「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が公表されました。

第三次計画の課題には、上級学校に上がるにつれ増加傾向にある不読率（1 ヶ月に 1 冊も本を読まなかった人の割合）や、各自治体における「子ども読書活動推進計画」の策定率および図書館設置率の地域格差、学校図書館資料の整備不十分などが挙げられています。また、ボランティア活動については、第二次計画に比べ、より具体的に触れられています。

今後、福島県においても「福島県子ども読書活動推進計画(第三次)」が策定される予定です。

福島県内における各自治体の子ども読書活動推進計画策定状況は、福島県教育庁社会教育課ホームページ『「子どもの読書活動推進」ページ』で確認することができます。このウェブサイトでは、国の基本計画や読書に関する関係法令、文部科学省の「子どもの読書活動推進ホームページ」などもリンクされています。

福島県教育庁社会教育課

『子どもの読書活動推進』ページ

URL : <http://www.syakai.fks.ed.jp/>

[suishinkatudou/index.html](http://www.syakai.fks.ed.jp/suishinkatudou/index.html)

児童図書研究室の本棚から 目録・ブックリストの変容

長年、児童書を選ぶ際に役立ってきた目録やブックリストの形が、大きく変わってきています。



『児童図書総目録』(日本児童図書出版協会)は2013年発行の第61号をもって、ウェブでの公開へと移行されます。『よい絵本』(全国学校図書館協議会)は既に、第26回(2012年)から全国学校図書館協議会のホームページでの提供となっています。また『学校図書館基本目録』(全国学校図書館協議会)は、2012年4月発行分より、収録対象の範囲が、従来の5年間分から前回刊行以降選定された図書1年間分へと大幅な改訂がなされています。

こうした媒体・編集方針の変更には、インターネットの普及や、様々な団体から提供されるブックリストの存在が影響しており、特に電子版での情報提供は今後更に増加するものと考えられます。

児童図書研究室では、過去に出版された目録・ブックリストに加え、新たな形での提供にも対応し、みなさまからのお問い合わせにお応えします。

【 参 考 】

★日本児童図書出版会「こどもの本 on the WEB」 <http://www.kodomo.gr.jp/>

★全国学校図書館協議会(全国SLA) <http://www.j-sla.or.jp/>





このコーナーは、ふくしまサイエンスぶらっとフォーム (spff) 会員の科学コラムと、福島県立図書館「こどものへや」担当者の子どもの本の紹介となっています。

【図書館・公民館図書室・学校図書館のみなさまへ】

こちらのコーナーは、館内掲示に限って、複写・切り取りをして利用することができます(点線に沿ってお切り下さい)

上記以外の目的でご利用されたい場合には、福島県立図書館・児童図書研究室までお問い合わせください。

私たちは小学3年生の頃から、地図帳に親しんできました。そのため、日本の国土の大体の配置を書いてもらおう、ほとんどの人が書けます。しかし、この日本の大地が今の形になってからまだ1500万年程度しか経っていないことを知る人は少数です。実は、日本の大地はユーラシア大陸から2000万年前頃から離れ始めて、約500万年かけて移動し現在の形になったのです。地球は誕生してから46億年と言われていますが、その時間スケールで考えますと、日本という大地は、できたてほやほやの赤ちゃんなのです。

皆さんはアフリカ大陸と南アメリカ大陸を地図上で眺めたことはありますか。二つの大陸がジグソーパズルのように、一つになるといったことはありませんか。

今から100年ほど前、ドイツ人のウェグナーという気象の研究者は、二つの大陸を調べると、同じ恐竜メソサウルスの化石が見つかりました。この恐竜は淡水に住んでいたもので、海を渡ることはできません。だから、この二つの大陸はくっついていてと学会で発表しました。これを大陸移動説と言います。会場から質問が出ました。「ウェグナーさん、それでは、この二つの大陸はどうやって移動したのですか」と。残念ながら彼は聴衆を説得する解答を出せませんでした。

彼が亡くなってからおよそ50年後、プレートテクトニクスという大地は動いているという学説が発表されました。ここで、ウェグナーの大陸移動説は証明されたのです。このプレートテクトニクスのおかげで、地震や火山についても、よくわかるようになりました。

(佐藤公ノ磐梯山噴火記念館)

【このテーマに関する 子どもの本】

◆「大陸は動く」 大竹政和／著 『光村ライブラリー第16巻 田中正造ほか』 光村図書 2002.3 収録

大陸移動説を題材に、小学校5年生の国語教科書のために書き下ろされたもの。昭和61～平成13年度版に掲載されていました。難しい内容が簡潔にまとめられており、子どもの科学の本の書かれ方を見るのにも適しています。

◆「ひきさかれた大陸」 小島郁生・加藤秀／著 偕成社 1979.2

大陸を動かす原動力が、大西洋海底での火山活動であることが突き止められるまでを細やかに書いた本。ウェグナーをはじめ、多くの科学者たちが様々な方法や考えで真実に迫ろうとします。出版年が古いので、比較的最近の状況を見るなら、「地球は火山がつくった」(岩波ジュニア新書) 鎌田浩毅／著 岩波書店 2004.4 など。

子どもの読書と科学のコラボ事業 『磐梯山を知ろう』

磐梯山噴火記念館副館長・佐藤^{ひろし}公さんと共に、火山を題材にした実験と、絵本の読み聞かせなどを行います。

日時 11月30日(土) 10時～16時

場所 いわき産業創造館・企画展示ホール

(いわき駅前LATO^{ラトフ} 6階)

※ 同時開催 spff サイエンス屋台村 in いわき



【ご質問・情報はこちらへ 福島県立図書館・児童図書研究室】

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218 FAX 024-536-4787